

情報公開文書

研究課題名	運動器損傷治癒過程の解明、非侵襲的検査を用いた後方視的研究
研究体制	<input type="checkbox"/> 長野赤十字病院が責任研究機関となる <input checked="" type="checkbox"/> 他施設が責任研究機関となる共同研究 （責任研究機関：名古屋大学医学部附属病院）
研究責任者	責任研究機関 所属 <u>手の外科</u> 氏名 <u>山本 美知郎</u> 当 院 所属 <u>整形外科</u> 氏名 <u>石原 典子</u>
研究期間	（西暦） 承認日 ～ 2035 年 3 月
研究の概要	<p>（研究の意義・目的）</p> <p>肩こり、腰痛、頸部筋肉痛、テニス肘（上腕骨外側上顆炎）、肩関節周囲炎、腰痛などの運動器に由来する疾患の疼痛は、多様な局所症状を引き起こし、プレゼンティズムとよばれる、労働生産性の低下に大きく寄与している可能性が指摘されています。</p> <p>これらの疾患は罹患率が高いにもかかわらず、原因や病態については不明な点が多いのが特徴で、特に慢性疾患に対する治療方法は対処療法としてのマッサージ療法、ストレッチによる筋膜リリースが中心に行われてきました。しかし治癒過程においてどのように症状緩和、治癒に至るかはよくわかっていません。近年の画像評価技術や疾患特異的な患者立脚評価が複数開発されており、こうした手法を利用することで治療の経過を客観的に評価でき、病態の解明につながる可能性があります。</p> <p>本研究では、近年確立された画像評価技術や疾患特異的な患者立脚評価を利用することで、これまで治療者、患者ともに主観的に評価をしていたこれらの疾患に「客観性」の要素を取り込むことを目標とします。研究により画像を用いた治癒過程の客観的観察、患者立脚評価の推移などをみていくことで、自覚的症状の強さと客観的所見の相関や乖離を明らかにしていきます。治療によってどの部分が治癒してくるのか判明し、治療として意味がある治療とそうでない治療を明らかにしていくことで、治療のエビデンスの確立に貢献することが期待されます。</p> <p>（研究方法）</p> <p>すでに診療の際に採取した情報、検査画像を過去にさかのぼって調査します。調査によってえられたデータは統計学的手法を用いた解析を行い、病態の解明や治療のエビデンスを構築していくのに役立てます。</p>
試料・情報	<p>（試料・情報の項目）</p> <p>情報として、身体プロフィール（身長・体重等）、主観的症状、関節可動域、筋力、患者立脚評価アンケートの結果、レントゲン写真やエコー、CT などの検査画像等を研究に用います。</p>

外部への試料・情報の提供	データはカルテの診療情報と画像を含みます。これらはサーバーから採取後即座に匿名化を行うために、患者さんの同定が不可能になります。研究に用いたデータは、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行い、以下の共同研究組織の中でのみ扱います。
研究対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年4月1日～2032年3月31日までの間に当院にて以下の疾患の治療をうけられた方にて以下の疾患の治療をうけられた方 ・疾患名：肩腱板断裂、反復性肩関節脱臼、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、肩こり、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、腰痛症、腰椎分離症、手関節部腱鞘炎、ド・ケルバン病、手指伸筋・屈筋腱鞘炎、絞扼性神経障害、末梢神経麻痺、変形性指関節症、変形性手関節症、変形性肘関節症、上腕骨骨折、橈骨骨折、尺骨骨折、手根骨骨折、中手骨骨折、指節骨骨折（ただし骨折には脱臼骨折も含む）、鷲足炎、腸脛靭帯炎、アキレス腱断裂、足底筋膜炎 <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
個人情報の保護	収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で使用いたします。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定できない形で行います。
お問い合わせ先	<p>〒380-8582 長野県長野市若里五丁目22番1号 長野赤十字病院 所属 <u>整形外科</u> 氏名 <u>石原 典子</u></p> <p>TEL：026-226-4131（代表） FAX：026-228-8439</p>